

日本医史学雑誌 第五十一卷 第四号 目次

原 著

医家合田家の歴史と蔵書……………町泉寿郎・小曾戸洋・天野陽介・花輪壽彦……………五七
 近代解剖制度史補遺……………

研究ノート
 『明治四十四年九月 屍体二關スル記事 東京醫科大學解剖學教室』の分析から……………香 西 豊 子……………五九
 現代中国の農村社会の変遷における郷村医の形成……………三 橋 かほり……………五九
 ——はだしの医者形成と「再生」——……………小 山 聡 子……………五九
 『病草紙』制作と後白河法皇の思想……………松岡尚則・山下幸一……………六五
 郷土史家 寺石正路の燈下与兒談における明治期の漢洋治療……………泉 彪之助……………六七

ひろば

『医史学における複言語主義のすすめ……………高 橋 昭……………六二
 追 悼……………

追 悼

名誉会員 日比野進先生のご逝去を悼む……………池田文書研究会……………六四
 資 料……………深 瀬 泰 旦……………六五

資 料

池田文書の研究(二十八)……………
 手塚良斎「医学所御用留」(八)……………

記 事……………

記 事

例会記録……………佐分利 保 雄……………六〇
 例会抄録……………日 野 英 子……………六一

ウルソデキシコール酸(UDCA)の発見……………
 矯正給食から窺える庶民日常食の史的觀察……………

明治期の精神病院に於ける看護婦養成について……………
 ——府立巢鴨病院の実態から……………澤 田 恵 子……………六一

……………

……………

……………

黒死病はペストか——黒死病の謎
消息

第十一回国際東アジア科学史会議

Chinese Medicine: A Visual History (中国医学史画像国際会議)

アジア医学史学会第三回学術大会および谷口賞の案内

書籍紹介

高島文一著『続・鍼の道——内科医の熟年』

栗山茂久・北澤一利編著『近代日本の身体感覚』

武田科学振興財団杏雨書屋編『未版 備急総効方』

W・J・ビショップ著、川満富裕訳『外科の歴史』

酒井シヅ編 女医吉岡弥生の手紙『愛と至誠に生きる』

滝上正 六三

真柳誠 六三

日本医史学雑誌第五十一巻 総目次

六〇

《本号の表紙絵》

富士川游先生の奇習

この絵はがきは、古河の川島恂二先生からいただいたもので、昭和40年(1965)に第62回日本精神神経学会総会が広島で開かれた際、会長の小沼十寸穂広大教授が画かれた作品である。この年、芸州出身の呉秀三、富士川游両先生生誕百周年に当り、記念品として画かれたなかの1枚である。“富士川先生講義中の奇習を当時教え子たりし小沼が、略々40年後の今日憶起して模した”とコメントされている。昭和の初期、富士川先生は慶応でも講義をされたのかと、『昭和12年度版・日本医籍録』の慶応義塾大学医学部の頁をみると、教員スタッフの中に、医史・講師 富士川游(医博・文博)とでている。10年も教鞭をとられたわけである。勿論、今日の慶応同窓会・三四会の会員名簿にお名前だけは収載されている。

なお、この図は寺畑喜朔編の『絵葉書で辿る日本近代医学史』(思文閣出版)に収載されている。

(中西 淳朗)